

龍馬と学ぼう

日商簿記 1 級

日商簿記 1 級フリーテキスト講座

<工業簿記 4> 製造間接費

全 5 枚



わかるぜよ

お持ちのテキストの該当の章を読んだうえで視聴して下さい

弥生カレッジCMCのフリーテキスト講座（無料動画で公開中）

日商1級の工業簿記・原価計算は2級の知識を万全にしてからご視聴下さい

この単元は**必ず**、日商2級フリーテキスト講座の製造間接費を視聴してからご覧ください

28分から昨年（平成25年）収録分を付け加えております。

43分45秒~44分33秒は当時のテキスト使って話していますが聞き流してください。

日商2級の製造間接費の予定配賦。しっかり理解できたでしょうか。

では、日商1級の特有論点である実査法変動予算を全経上級158回類題（抜粋）で確認してみましょう。

<製造間接費関係の資料>

(1)当月製造間接費勘定の借方記帳額合計 1,700,000円

(2)多桁式（実査法）による変動予算を用いて予定配賦している。直接作業時間における月次の実際的生産能力は2,200時間、過去3年の平均操業度は2,150時間、月次の期待実際操業度は2,000時間である。当社では翌会計期間に予想される操業度を基準操業度としている。

(3)実査法による変動予算

操業度(時間)	1,400	1,600	1,800	2,000	2,200
製造間接費予算(円)	1,522,260	1,542,790	1,632,960	1,680,000	1,810,000

(4)当月実績データ

	#101	#102	#103
直接材料α		100	26
直接材料β	35	45	60
直接作業時間	650	1,100	230



実査法って難しそう
だけど案外簡単
よ！！

以前の収録分とあわせて再編集していますので、例題 4-1 といっていますが気にしないで下さい

例題 4-1

CMC 製作所では、機械時間を基準として製造間接費を予定配賦している。以下の資料に基づいて、①変動予算②固定予算の場合の予定配賦額、予算差異、操業度差異を計算しなさい。

1. 製造間接費予算

科目	固定費	変動費	合計
補助材料費			
消耗工具			
給料			
修繕費			
電力量			
減価償却費			
リース料			
雑費			
合計	120,000,000	15,000,000	135,000,000

2. 年間基準操業度 30,000 時間

3. 当月の実際機械作業時間 2,480 時間

4. 当月の製造間接費実際発生額（固定費 10,000,000 円 変動費 1,200,000 円）

回答

	①変動予算	②固定予算
予定配賦額	11,160,000	11,160,000
予算差異	40,000（有利差異＝貸方差異）	50,000（有利差異＝貸方差異）
操業度差異	80,000（不利差異＝借方差異）	90,000（不利差異＝借方差異）

ついでに、練習問題 4-1 も行きましょう

同じく練習問題 4-1 といっていますが気にしないで下さい

練習問題 4-1

CMC社では、実際原価計算を行っており、製造間接費は公式法変動予算によって直接作業時間を配賦基準として正常配賦している。以下の資料に基づき、製造間接費勘定と仕掛品勘定を作成するとともに、予算差異と操業度差異を計算しなさい。

(単位：千円)

主要材料月初棚卸高	400
主要材料月末棚卸高	450
仕掛品月初棚卸高	200
仕掛品月末棚卸高	100
賃金月初未払高	2,300
賃金月末未払高	2,350
賃金当月支払高	8,000
賃率差異 (借方)	180
予定賃率による直接工賃金	2,000
補助材料 当月消費高	700
主要材料 当月仕入高	7,500
材料消費価格差異 (貸方)	100
電機代 (当月消費高)	1,800
月額減価償却費	1,500
年間予定直接作業時間	12,000 時間
年間製造間接費予算額	120,000 (うち固定費 84,000)
当月実際直接作業時間	990 時間

